
傍観者

鍵宮 琉絵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傍観者

【Nコード】

N3737V

【作者名】

鍵宮 琉絵

【あらすじ】

「やっぱ・・・姉は弟を守んなきゃね・・・。」

序章

昔々、この世界のどこかにひとつの王国がありました。

その王国は無謀にも、世界の六人の七人の王達に戦争をしかけました。

七人の王達が勝利し、その王国は滅ぼされ、王族は処刑されることになりました。

国民も、女・子どもに限らず皆殺されました。

しかし王女と王子は生かされました。

他の王族は処刑されたのに、何故二人が生かされたのか、今では知る者は誰もいません。

この王国が滅ぼされたことにより、世界には平和が訪れたのです。

そしてその七人の王達は『七賢者』と讃えられました。

第一章 現在 1 (前書き)

リュウゼン・シャロン〜ディール王国 応接間〜

第一章 現在 1

ゴーン ゴーン ゴーン

午後1時を城の鐘が告げた

おれは双子の姉、リフェリアと応接間でこの国の大臣を待っていた。

コン コンと扉をノックする音が聞こえメイドが入ってきた。

「失礼致します。 お茶をお持ち致しました。」

カラカラとワゴンをひきながらテーブルに近づいてくる。
テーブルの下には絨毯がひかれていて、”お約束”と言わんばかりにメイドは足を引っ掛けた。

4

「え・・・きゃあっ!!」

皆に問いたい。メイドが持っていたのはワゴンだ。
足を引っ掛けておれ達の足元にお茶等が広がるのはわかる。
それならわかる。 だが・・・

ガッシャーーーーーー

「あっっつっ！！！！！！！！」

なぜおれの頭にピンポイントに上から降り注いで来るんだ！！！！！！！！

「も……申し訳ございませんぬ！！ 今すぐ拭つものを……」

メイドがワゴンからタオルを取り出していると、外からバタバタと他のメイドが応接間の扉を乱暴に開けた。

「今の音は何事でございますか！！！？？」

入ってきたのはメイド頭のプリム

部屋を見渡して、ワゴンが倒れてカップその他諸々が割れていること、おれが濡れているのを見て、彼女の顔は一気に紅潮した。

「リ……ッ リユウゼン様 申し訳もござりませぬ！！！！！！ ユ
ウユ！！またあなたは……っ！！！！」

絨毯に足を引つ掛けたのはユウユというメイド
よくこのようなドジを起こしているらしいな。 プリムが”また”
って言ってるから

「プリム」
リフェルがプリムの話を止める為に名前を呼んだ。
いつもより少し低い声が応接間の中に響く。

「客人の前で部下を叱るのはいただけないわね……。下がりなさい。
ほらユウユ？リユウにタオルタオル」

プリムが下がった後、ユウユはおれにタオルを手渡して伏し目がちにリフェルの方を向いた。

「ありがとうリフェル……。それとリユウ君 ごめんね。」
「気にしないでいいわよユウユ。 かぶったのはあたしじゃなくてリユウだから。」
「え それどうこと？……。まあいいや。それにしても大変だなー。
・・・王宮の仕事も。」

おれ達3人は高校の同級生。

高校出た後はおれ達が国を出たから、しばらくぶりの再会になるってこつた。

まー・・・俗にいう親友ってやつなのかな。1人足りんけど。

「慣れてきたら面白いよ？ よくプリム様に叱られるけど・・・」

そこまで言つてユウユはふふつと笑つた。

「それにしてもびっくりしたあ・・・。特別なお客様がいらつしやるとは聞いていたけど、それがリフェルとリュウ君だなんて。

しかも世界政府公認視察官！ 名前聞いた時本当にびっくりしたんだから。」

【世界政府公認視察官】

世界政府に加盟している各国を視察し、その国が行っていることが行っていることを国民が本当に必要としているか調査する。ある一族が代々受け継ぎ、世界政府設立時からある役職である。その一族とはシャロン家。リフェリアとリュウゼンの一族である。

「連絡しようと思つただけど時間なかつたのよ。しかも今日は誰かさんが寝坊してね？」

リフェルはにっこりとおれの方を向く

「いや・・・その・・・お、起こしてくれたってよかったじゃないかあああああ！！！！！！」

今日おれは朝8時に起きなければならぬ所を、実際に起きたのは10時だった。

世界政府のあるサンクタムからここ、デイル王国までは約3時間（飛んでな）

約束の時間は午後1時間に合わない。

でも頑張っつて間に合わせた・・・よ？ うん

「あたしがそんなお人よしじゃないことぐらい知ってるでしょ？」

「絶対リフェルって放つといて先行っちゃうタイプだね。ドンマイ リユウ君」

酷い・・・

「あ そうそう。ミナル君にはもう会った？ 彼もここで働いてるのよ」

「え・・・ マジで？」

ミナルはさっき言ってた親友の最後の1人
えーじゃあ会いてえなー・・・

ガチャ・・・ッ

今まで閉まっていた扉がおもむろに開く

そして男の声が聞こえてきた

「リュウ〜ゼ〜ン〜!!!」

そこには何故か怒った顔のミナル。

え　なんで顔怒ってるん？

「お前なあ！いい加減僕が貸した雑誌返せよ！！　アレプレミアも
んなんだからな！」

「久しぶりの第一声がそれですか！！????」

やっべ・・・あの雑誌どこいったっけ・・・

「まあいいや・・・。今度絶対持ってきてよ？　・・・久しぶりだね
リュウゼン」

「ああ・・・久しぶりっ?！」

ミナルがいきなり回し蹴りをおねにくらわしてきた！

「僕達と言えば？」

「相見えた時には瞬時に切り結べ・・・だったな！！　よっしゃ負け
ねえぞ!!!!!!」

組み手を始めたおれ達をリフェルとユウユは少しひややかな目で見
つめていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3737v/>

傍観者

2011年10月9日13時30分発行